

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 2 0 0 8 年 8 月 調 査 結 果 - -

2 0 0 8 年 8 月 2 9 日
日 本 商 工 会 議 所

< 結果のポイント >

8月の全産業合計の業況DIは 58.8となり、6年ぶりのマイナス60台を記録した前月水準からマイナス幅が1.7ポイント縮小したものの、引き続き厳しい状況。

しかし、全産業合計の仕入単価DIは 60.9となり、1991年5月の同DI調査開始以来、最悪の水準を更新した。

引き続き、原油・原材料価格の更なる上昇や、食料品をはじめとする諸物価高騰の影響による、消費者の購買意欲の低迷を訴える声強い。

厳しい経営状況が続く中で、倒産や廃業、人員整理などを訴える声が、前月以上に寄せられている。

L O B O 調 査 は、地 域 に お け る 毎 月 の 景 気 動 向 を 調 査 す る も の で あり、当 該 月 の 景 況 に 係 る 調 査 結 果 を 最 も 早 く 集 計 ・ 公 表 し て お り ま す (1 9 8 9 年 4 月 調 査 開 始)。

調査期間：2008年8月18日～22日

調査対象：全国の404商工会議所が2580業種組合などにヒアリング
(内訳) 建設業 381 製造業 616 卸売業 235
小売業 738 サービス業 610

調査項目：今月の業況・売上・採算などについての状況(DI値を集計)および業界として当面する問題など

DI値(景況判断指数)について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

【本件担当】産業政策部 TEL: 03 - 3283 - 7836
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

本調査結果は日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【2008年8月調査結果の概要】

各種原材料価格高騰の影響で厳しい状況、仕入単価D Iは最悪値を更新

8月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、6年ぶりにマイナス60台を記録した前月水準（60.5）よりマイナス幅が1.7ポイント縮小して58.8となり、悪化傾向に一服感が見られるものの、引き続き厳しい状況。

産業別の業況D Iは、卸売、小売でマイナス幅が拡大し、他の3業種も低水準で推移している。

一方、仕入単価D Iは最悪値を更新、特に建設で厳しい状況となっている。

景気に関する声、当面する問題としては、製造など一部に好調（新興国向けの造船など、鉄鋼、機械関係の受注増加等）、先行き期待という声があるものの、その受注量・受注額ともに減少しつつあるという声もあり、今後は鈍化傾向となる見込み。また、仕入価格の高騰に伴う採算の悪化、消費の低迷による売上の減少などを訴える声が依然として強い。

各業界から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業 ~ 仕入単価D Iは最悪値を記録した6月以降、低水準で推移~】

- ・「倒産件数が増加傾向にあり、業界全体に危機感が強まっている」（電気工事業）
- ・「原材料価格の高騰で採算が悪化する中、公共事業の予算が削減されるなど厳しい状況で、倒産も増加」（建築工事業）
- ・「原材料価格の上昇に対し、競争の激化に伴い受注価格が低下し、採算は悪化」（一般工事業）

【製造業 ~ 売上D Iは02年11月、採算D Iは02年2月以来の低水準~】

- ・「原油価格の高騰に伴う、包装資材をはじめとする諸経費の上昇が収益を圧迫」（パン・菓子製造業）
- ・「諸物価高騰の影響による消費意欲の低迷に伴い、衣料品の売上が減少」（ニット・シャツ製造業）
- ・「業況の厳しさから、新規の設備投資等の受注が減少し、収益が悪化」（輸送用機器製造業）

【卸売業 ~ 業況D I、採算D Iともに02年2月以来の低水準~】

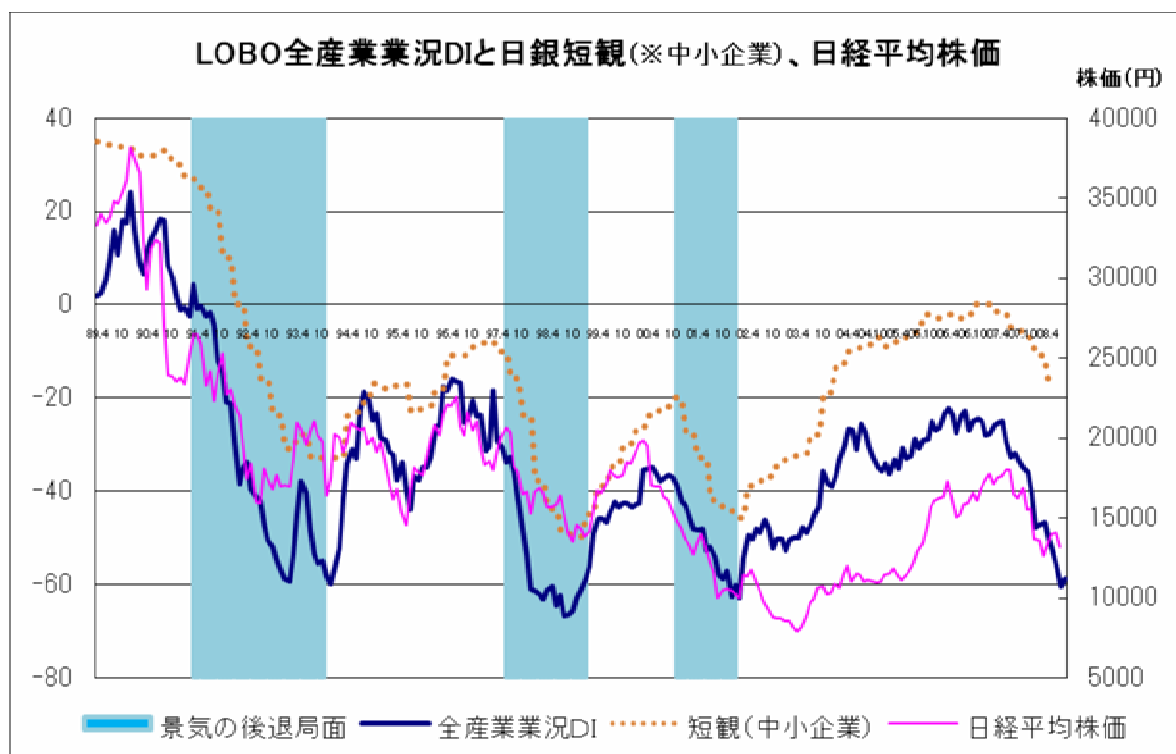
- ・「依然として原材料価格の高騰に伴う販売価格の上昇が影響し、買い控えが目立ち売上が減少」（衣服・日用品卸売業）
- ・「仕入価格高騰分の販売価格への転嫁は難しく、原油高の影響による諸経費の上昇もあり、採算面で厳しい状況」（他の卸売業）
- ・「人件費の削減が行われるなど、業界全体が不況」（建築材料卸売業）

【小売業 ~ 業況D Iは02年2月以来の低水準~】

- ・「売上は順調に推移しているが、仕入価格の上昇が上回り、収益の確保が難しい状況」（百貨店）
- ・「原油価格高騰の影響による車での来客数の減少に伴い、売上が悪化」（その他の小売業）
- ・「売上悪化の影響から、倒産や完全撤退が相次ぐなど、明るい展望がない状況」（商店街）

【サービス業 ~ 悪化傾向に一服感が見られるものの、引き続き低水準で推移~】

- ・「仕入れ価格が3カ月連続で上昇する一方、来客数・売上ともに減少するなど、厳しい状況」(食堂・レストラン)
- ・「原油価格高騰の影響に伴う消費意欲の低迷により観光客数が減少し、売上が悪化」(一般飲食店)
- ・「消費者の節約志向が強くなり、特に自動車を利用した来客数が減少」(旅館)



短観(中小企業): 資本金2千万円以上の企業が調査対象

【業況についての判断】

8月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、6年ぶりにマイナス60台を記録した前月水準（60.5）よりマイナス幅が1.7ポイント縮小して58.8となり、悪化傾向に一服感が見られるものの、引き続き厳しい状況。

産業別にみると、D I 値のマイナス幅は卸売、小売で拡大し、他の3業種も引き続き低水準で推移している。中でも卸売、小売は02年2月以来の低水準。

向こう3カ月（9月～11月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が56.9と、昨年同時期の先行き見通し（27.4）に比べて29ポイント以上悪化している。

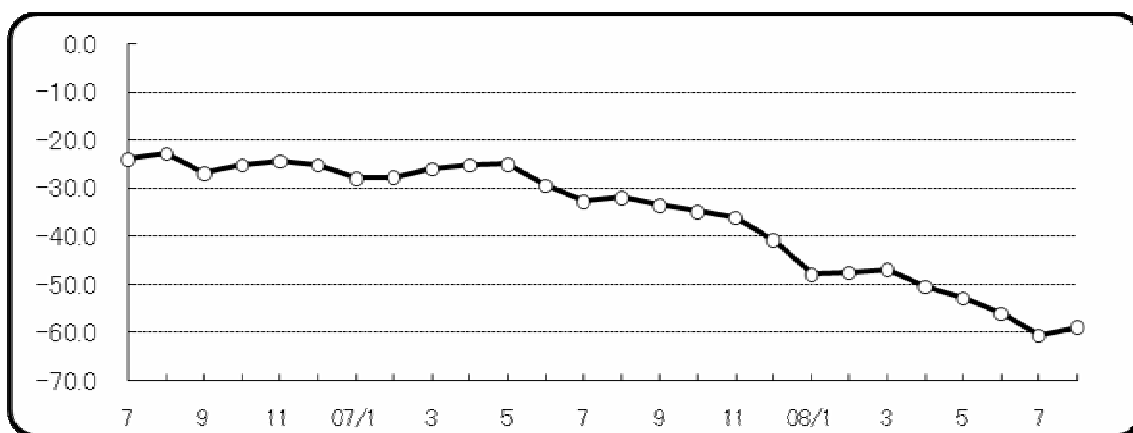
産業別にみても、すべての業種で昨年同時期の先行き見通しに対し、21ポイント以上マイナス幅が拡大している。

業況D I（前年同月比）の推移

	08年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	46.9	50.4	52.9	56.0	60.5	58.8	56.9 (27.4)
建設	59.4	64.6	65.0	67.7	73.2	71.4	65.6 (44.3)
製造	41.3	43.1	49.0	52.4	61.3	55.4	52.6 (22.8)
卸売	47.3	53.6	49.1	52.6	64.5	64.7	52.3 (24.4)
小売	48.4	52.8	52.6	57.7	54.4	58.9	58.7 (25.7)
サービス	43.3	44.4	50.6	51.2	56.8	51.4	55.5 (24.7)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I
（ ）内は昨年8月の先行き見通しD I < 以下同じ >

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が0.6ポイント拡大して45.2となり、5カ月連続で悪化した（03年1月以来の低水準）。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設、サービスで縮小したものの、他の3業種で拡大した。中でも、製造は02年11月以来の低水準。

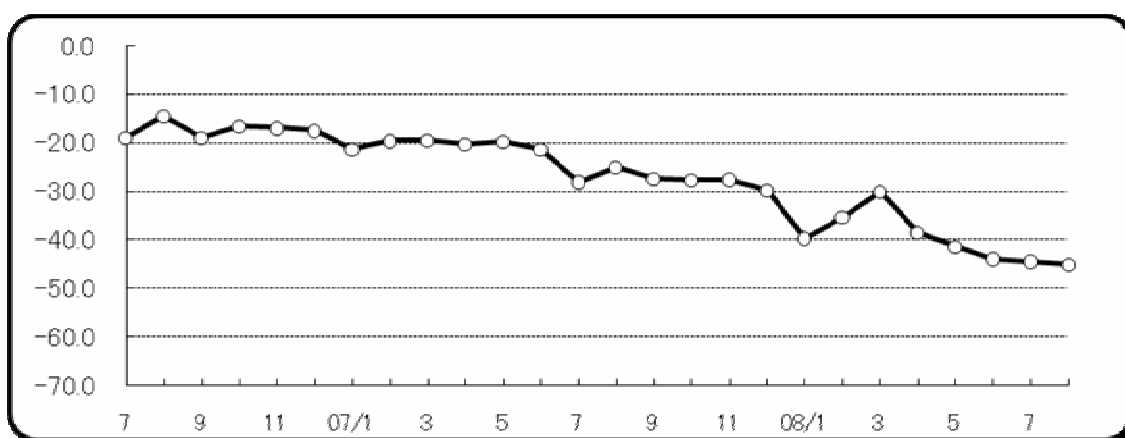
向こう3カ月（9月～11月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I（今月比ベース）が45.9と、昨年同時期の先行き見通し（20.8）に比べ25ポイント以上悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種で17ポイント以上マイナス幅が拡大している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	08年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	30.1	38.6	41.5	44.1	44.6	45.2	45.9 (20.8)
建設	53.0	54.3	58.6	62.2	62.6	58.9	53.4 (35.8)
製造	19.5	25.5	29.9	33.0	39.7	41.0	39.0 (16.8)
卸売	29.3	42.1	33.1	39.2	42.6	46.0	40.9 (18.7)
小売	26.8	42.0	46.5	48.7	39.9	47.3	48.4 (20.2)
サービス	31.5	36.4	39.9	40.2	44.5	37.6	47.1 (17.1)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が0.5ポイント拡大して56.4となり、5カ月連続で悪化した(98年12月以来の低水準)。産業別にみると、D I値のマイナス幅はサービスで縮小したものの、他の4業種で拡大した。中でも、製造、卸売は02年2月以来、小売は99年12月以来の低水準。

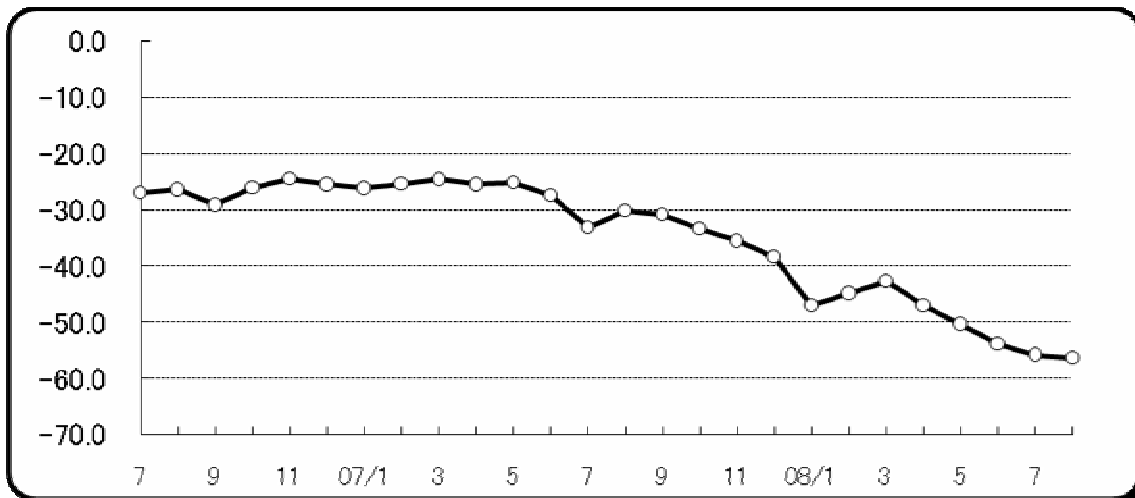
向こう3カ月(9月~11月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が54.5と、昨年同時期の先行き見通し(26.6)に比べて27ポイント以上悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種で21ポイント以上マイナス幅が拡大している。

採算D I (前年同月比) の推移

	08年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9~11月
全産業	42.8	47.1	50.4	54.0	55.9	56.4	54.5 (26.6)
建設	62.8	61.4	63.5	70.9	70.1	70.4	64.0 (42.5)
製造	42.1	46.1	50.6	54.4	58.1	59.0	54.1 (24.4)
卸売	44.0	41.7	39.9	44.2	49.0	55.3	49.7 (23.1)
小売	34.2	42.7	46.9	48.2	46.8	49.2	50.1 (24.0)
サービス	41.1	45.9	50.0	53.0	57.9	53.0	55.7 (23.2)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	08年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	28.4	30.3	31.0	31.9	37.8	37.2	37.9 (20.1)
建設	46.3	43.5	47.6	46.6	52.3	56.3	52.7 (37.0)
製造	25.3	25.3	31.3	34.2	36.0	37.7	36.8 (16.8)
卸売	20.9	28.8	24.3	27.5	32.2	32.2	31.0 (14.7)
小売	25.5	30.0	24.9	26.2	31.2	32.7	33.9 (18.4)
サービス	26.9	27.7	29.4	27.5	39.9	30.5	36.1 (16.6)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは前月からほぼ横ばい。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設、製造、小売で拡大し、卸売で横ばい、サービスも低水準で推移した。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化が強まる見通し。産業別にみても、すべての業種で悪化が強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	08年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	51.6	55.9	55.7	59.8	59.4	60.9	52.9 (29.2)
建設	59.2	67.2	70.1	71.5	70.4	71.3	58.1 (37.8)
製造	60.5	63.5	63.2	68.1	65.4	70.4	54.8 (40.9)
卸売	47.3	44.1	45.7	48.7	51.0	46.7	45.0 (25.6)
小売	42.7	49.0	48.2	52.6	52.8	53.7	52.4 (20.0)
サービス	49.7	53.4	51.2	56.1	57.0	58.4	51.1 (23.4)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは、調査開始以来最悪の水準を更新し、60.9となった。産業別にみると、仕入単価の上昇感は卸売で弱まったものの、他の4業種で強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇感が強まる見通し。産業別にみても、すべての業種で上昇感が強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	08年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	3.8	3.8	6.5	7.9	9.0	8.1	8.5 (3.7)
建設	22.2	20.9	21.3	25.6	28.0	28.6	29.6 (18.5)
製造	2.0	3.8	6.2	9.1	9.8	7.7	5.9 (3.7)
卸売	7.4	6.6	6.7	10.4	13.5	14.0	14.8 (13.2)
小売	3.9	2.0	0.6	0.2	2.6	1.4	2.8 (4.7)
サービス	2.5	1.6	5.4	3.1	1.3	0.0	1.1 (0.3)

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比D I】全産業合計の従業員D Iは前月からほぼ横ばい。産業別にみると、D I値は建設、卸売で過剰感が強まったものの、他の3業種で過剰感が弱まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は過剰感が強まる見通し。産業別にみても、小売、サービスで過剰感に転じ、他の3業種で過剰感が強まる見通し。

【2008年8月の景気キーワード】

更なる悪化への懸念

各業種から、業況の悪化に伴う更なる先行き不安を訴える声が寄せられている。建設からは、「鉄筋・鉄骨の仕入価格の更なる価格上昇が予定されており、業界は厳しさが増す見込み」(一宮・一般工事業)、「仕入元から仕入単価値上げの申し出があり、今後の採算の悪化を懸念」(犬山・管工事業) 製造からは、「マンション業界の倒産が相次いでおり、今後も厳しい状況が続く見込み」(御坊・製材木製品製造業)、「原材料価格の高騰に対する価格転嫁が進まない中、業況の悪化は先行きに大きな不安を残す」(さいたま・ブリキ缶等製造業)、「中国・インド市場向けの受注が大幅に減少しており、今後の収益の悪化を懸念」(大阪・繊維機械製造業)との声が寄せられている。

仕入コストの更なる上昇

各業種から、原材料価格の高騰に伴う仕入コストの更なる上昇を訴える声が寄せられている。建設からは、「見積後に仕入価格が高騰し、収益が確保できない状況」(水沢・一般工事業)、「原油・原材料価格高騰の影響で、資金繰りが困難になってきている」(松戸・左官工事業) 製造からは、「前月から燃料費が大幅に値上げされ、さらに厳しい状況」(大垣・他の窯業・土石製造業)、「原油・鋼材価格のさらなる高騰に伴う生産コストの増加が、収益を圧迫」(清水・金属加工機械製造業)との声が寄せられている。また、サービスからも、「売上は多少増加しても、それ以上に仕入価格が上昇しているため、採算は悪化」(いわき・一般飲食店)といったコメントが寄せられている。

消費意欲の低下

原油価格の高騰や、食料品をはじめ各種商品の物価上昇に対する不安感から、消費者の購買意欲の低下による売上悪化などの影響を挙げる声も寄せられている。小売からは、「原油価格の高騰に伴う商品価格の上昇により消費意欲が低下し、売上が悪化」(蕨・百貨店)、「個人消費は極めて厳しい状況が続いており、特に高額品の売上減少の影響が大きい」(横浜・百貨店)、「夏の観光シーズンで来街者は多いものの、売上の増加には結び付かない」(銚子・商店街) サービスからは、「お盆期間中の売上は確保も、それ以外の期間は、昨年に比べて売上が減少」(野田・すし店)、「原油価格高騰などの影響で、車での来客数が減少し、売上が悪化」(今治・旅館)といったコメントが寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
08年 6月	更なる悪化への懸念	仕入コストの更なる上昇	消費意欲の低下
7月	更なる悪化への懸念	仕入コストの更なる上昇	消費意欲の低下
8月	更なる悪化への懸念	仕入コストの更なる上昇	消費意欲の低下

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

本文中の()内は、(地名・業種)を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D I、売上D Iは6カ月ぶりにマイナス幅が縮小、採算D Iは2カ月ぶりに拡大した。「受注面、収益面とも悪化傾向が続き、明るい展望は見出せない状況」、「鉄鋼、金属など資材価格は引き続き高騰しており、収益を圧迫」、「マンションの需要減少により、工事着工件数が激減」(すべて一般工事業)、「長期にわたる不況から、廃業する業者が発生」(建築工事業)「マンション不況により開発業者の倒産が相次ぎ、設備工事業もその影響を多大に受けている」(電気工事業)といった声が寄せられている。
製 造	業況D Iは6カ月ぶりにマイナス幅が縮小、売上D Iは5カ月連続、採算D Iは6カ月連続で拡大した。「売上は確保も、原油価格の高騰に伴う商品の値上げによる消費意欲の低下が厳しい状況」(パン・菓子製造業)、「同業者間で工場閉鎖や人員整理の話が出始めるなど、厳しい状況」(織物外衣製造業)、「仕入業者から資材の値上げの要請を受ける一方、外国製品との競合により売価は悪化」(建具製造業)、「自動車の生産縮小に伴う影響により、受注が減少」(金属加工機械製造業)といったコメントが寄せられている。
卸 売	業況D I、売上D I、採算D Iは3カ月連続でマイナス幅が拡大した。「猛暑の影響で冷菓・飲料水の売上が増加したものの、仕入価格の上昇が収益を圧迫」(各種商品卸売業)、「原油価格の高騰により、物流コストが増加し、採算が悪化」、「原油価格高騰の影響は極めて深刻で、今後は人員の見直しを行う業者も発生する見込み」(ともに農畜産水産物卸売業)、「メーカーからの値上げ要請が続くなど、収益の確保が難しい状況」(家具・建具等卸売業)といった声が寄せられている。
小 売	業況D I、売上D I、採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「消費者の低価格志向の上昇に加え、大型店の出店により、競争が激化」、「猛暑が続き来客数が減少し、売上が悪化」(ともに百貨店)、「原油価格高騰の影響で、車での飲食・買い物客が減少」、「オリンピック・高校野球の自宅観戦の影響で、来客数が減少」(ともに商店街)といった声が寄せられている。一方、「気温の上昇により夏用家電やビアガーデンの売上は好調」(百貨店)とのコメントも寄せられている。
サービス	業況D Iは6カ月ぶり、売上D I、採算D Iは5カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「受注が激減し、従業員も余剰状態」(ソフトウェア業)、「観光シーズで売上は順調に推移したが、仕入価格が上昇しており、採算は横ばい」(食堂・レストラン)、「食材の仕入価格の上昇に対し、売上悪化の懸念から、価格への転嫁は難しい状況」(一般飲食店)、「来客数が減少し、採算は悪化の一途で、今後は倒産の発生も懸念」(旅館)、「来客数が減少し、売上が悪化。一方、事業主の高齢化が進み、後継者が見つからず廃業する所も発生」(公衆浴場)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、東北、北陸信越、近畿、九州で悪化し、他の5ブロックは低水準で推移した。

なお、前月に比べて若干の改善が見られる北海道ブロックにおいては、観光需要の増加に伴う影響、四国ブロックにおいては、造船など一部製造の受注増加の影響によるものと見られる。

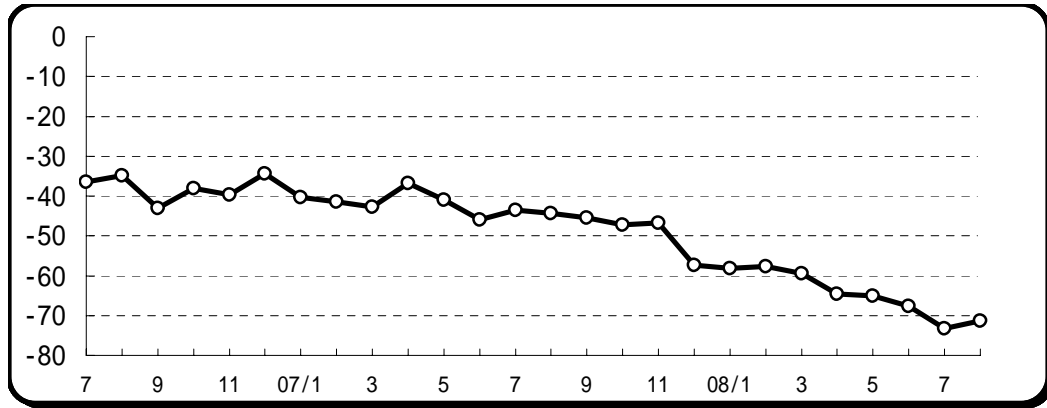
ブロック別の向こう3カ月（9月～11月）の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、すべてのブロックで悪化している。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

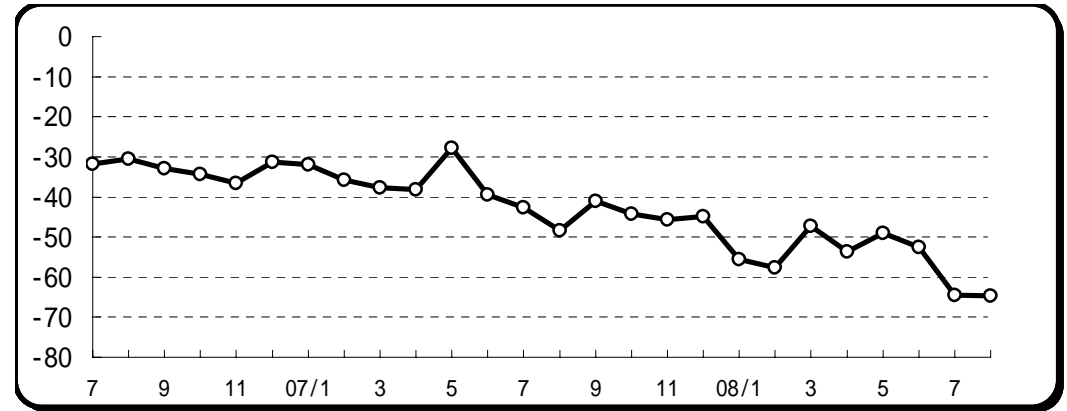
	08年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全 国	46.9	50.4	52.9	56.0	60.5	58.8	56.9 (27.4)
北 海 道	52.5	55.0	56.7	56.2	64.1	55.2	57.8 (32.4)
東 北	53.0	54.3	51.3	59.7	65.7	66.7	63.5 (32.4)
北陸信越	41.9	47.6	52.4	55.4	54.1	54.7	51.9 (24.7)
関 東	44.1	46.5	51.2	56.0	61.9	59.2	57.2 (25.2)
東 海	42.6	45.8	47.8	56.7	56.0	54.4	54.7 (24.7)
近 畿	54.1	49.6	55.2	57.9	64.3	64.5	56.8 (25.7)
中 国	50.4	62.0	57.1	56.2	59.2	55.1	56.0 (34.9)
四 国	44.4	50.4	54.2	50.4	62.4	56.9	61.2 (28.5)
九 州	43.3	53.1	53.5	55.2	55.0	58.6	54.8 (27.1)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

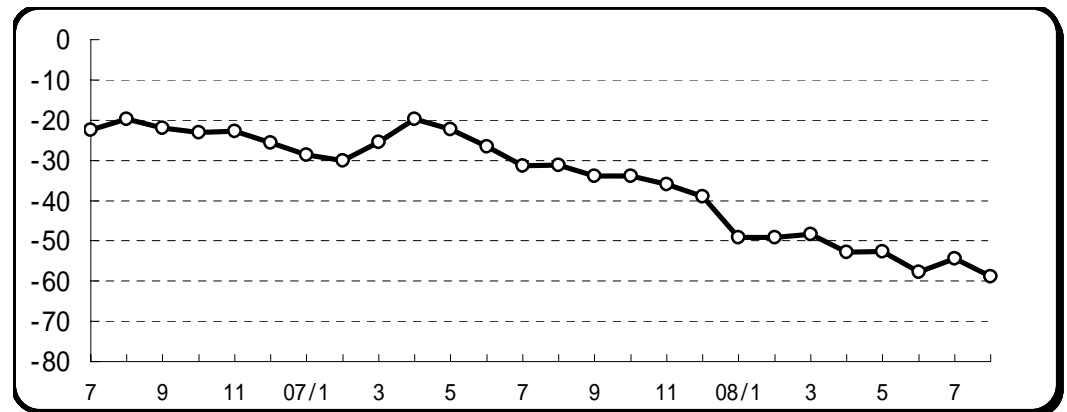
建設業



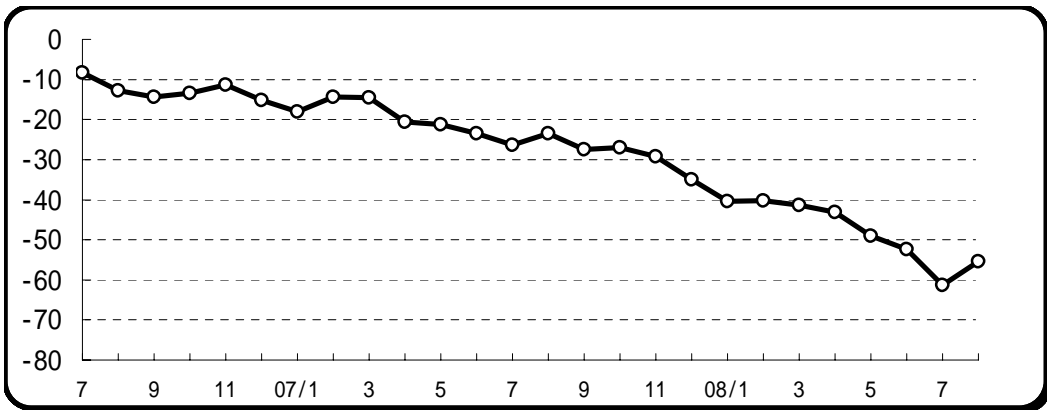
卸売業



小売業



製造業



サービス業

